

アニソンで神戸を元気に 有志らで運営団体を設立し イベントを開催



メンバーらとアニソンイベントの企画を練る大月さん(中央)

アニメソング(アニソン)を楽しむイベント「アニソンフェスタ2011 in KOBE 六甲アイランド」が2月20日、六甲アイランド内の専門学校で開かれた。東灘区制60周年記念事業の一環で、市民によるアニソンの披露や、人気アニソン歌手のライブなど盛りだくさんの内容で、主催団体の『アニソンで神戸を元気にする会(愛称:アニこべ)』は、「日本文化の一つといえるアニソンを神戸から発信し、多くの方に親しんでもらいたい」と意気込んでいる。

アニソンには不思議な力がある

同イベントは、市内や近隣地域のアニソン愛好家らで構成する実行委員会が主催。代表を務める大月みゆきさんは幼いころからアニメが好きで、人生のさまざまな場面でアニソンに救われた経験がある。「アニソンには愛や友情、勇気、希望、未来といった前向きな言葉がたくさん使われており、人を励ます不思議な力があります。聞いているだけで、自然と元気になれるのです」と魅力について語る。

神戸で生まれ育ち、震災を経験した大月さんは、「阪神・淡路大震災から16年経過し、外観はきれいになりましたが、まだ人々の心には傷が多く残っています。そんな神戸を、アニソンで今一度元気づけたい」という思いを持っていた。そこで、アニソン好きの知人らに声を掛け、2010年4月に同団体を設立。現在、メンバーは15人ほどで、アニメやアニソン、声優のファンをはじめ、まちづくりやイベント運営の経験者などが所属している。

市民参加型のプログラムに

設立後、大月さんは、アニソンをテ-

マにしたイベントを開こうと、東灘区のアニメーション学科や声優学科などを持つ専門学校アートカレッジ神戸に相談。そこで、市がアニメ産業の振興に注力していることや、東灘区の六甲アイランドをアニメコンテンツの街にしようという動きがすでにあることを知った。「コスプレイベントも頻繁に開かれるなど、六甲アイランドは東京・秋葉原に続く、関西のアニメ文化の中心になりつつあります」。秋葉原がコテコテのアニメイベントなら、神戸は、ファッションやジャズといった神戸ならではのコンテンツと融合させ、おしゃれで洗練されたイベントにしたいと考えた。その後、東灘区が区制60周年事業のイベントを募集していることを知り、メンバーらと計画を練って応募。区から「アニメコンテンツの街をアピールするいい機会」とお墨付きをもらい、企画案が採用された。

2月20日に開催された「アニソンフェスタ2011」では、声優公開体験レッスンやアニソンのど自慢大会、人気アニソン歌手のライブなどを実施。市民参加型のプログラムを基本とし、アニソンファン以外の人でも楽しめる内容とした。「市民アニソンコンサート」では、同

区の甲南女子大学管弦学部がアニソンを優雅に演奏。神戸国際大学ダンス部は、アニソンで軽快なダンスを披露するなど、多様な切り口でアニソンの魅力を発信した。「幅広い世代の方が来てくださり、ステージを見ながら一緒に口ずさむ方も多く見られました」と手応えを話す。

イベントのコラボも視野に

今後も、同団体では「アニソンで神戸を元気に」をキーワードに、イベントを開催していく予定。アニソンが老若男女に受け入れられやすいことから、福祉施設などでイベントをしてほしいとの声も掛かっており、訪問を計画中だ。

また、すでに六甲アイランドで開催されているコスプレイベントや、アニメをキーワードにまちづくりをしている長田区と共同でイベントを開催することも視野に入れている。「設立当初は右も左も分からない状態でしたが、少しずつ仲間が増え、このようなイベントを主催するまでになりました。これからも、神戸らしいコンテンツとコラボしながら、アニソンを通じて多くの方に元気を与えていきたいです」と夢を膨らませる。